

沼津市総合計画審議会 第2回産業・観光部会 会議の概要

日時：令和元年 11 月 7 日(木) 10:00～12:00

場所：沼津市民文化センター 第2練習室

資料：次第、資料1～2、第1回会議録

1 開会

2 沼津市総合計画基本構想（案）について

(1)第5章まちづくりの柱3 力強い産業を牽引するまち

事務局より、まちづくりの柱3 力強い産業を牽引するまちについて、第1回会議の意見を踏まえた対応及び⑤労働人材の確保と育成について説明。

●資料や説明に対する委員からの意見は以下のとおり。

⑤労働人材の確保と育成

- ・中小企業の事業承継は親子が多く、感情面のトラブルもあるので、間に入って調整する存在が重要である。会計事務所に相談することが多いが、地域に根差した金融機関の果たす役割は大きい。
- ・「事業承継の推進」という表現のみだと市として何をやっていくか具体的に見えない。金融機関のノウハウをフル活用してもらいたい。
- ・事業承継の当事者に問題意識を持ってもらうことが課題であり、商工会議所や金融機関に相談できることを総合計画に示すことは周知につながる。
- ・事業承継の推進に「関係機関との連携」を加えることが必要である。
- ・「勤労者福祉の充実を図る」という文言において、労働者の福利厚生の実が示されていて良い。
- ・文言はこれで良いが、高校の多さなど沼津の特徴をとらえた雇用政策が必要である。沼津高専や技術専門学校などの卒業生が、地元で働く仕組みを構築してもらいたい。
- ・沼津高専を活用してもらいたい。
- ・高校においては市外からの流入が多いのに、卒業とともに市外へ出て戻ってこないという沼津の課題をどうするか、高校生と地元企業とのつながりを深める事業など、特色を出してほしい。
- ・生産人口の減少が課題であり、高校生の地元への愛着や誇りを醸成するとともに、女性の働きやすい環境づくりも大切である。「潜在的労働力」という表現は、10年後にジェンダ－格差と指摘される恐れがある。生産人口を沼津ならではのやり方で増やすことが示されると良い。
- ・水産業においては、外国人労働者が活躍している。また、「高度人材」という表現は留学生においてよく使われているが、大学では留学生の地元企業への就職を求められており、連携の可能性がある。

- ・「労働人材の確保と育成」というタイトルについて、事業承継や廃業の解消を表すには少し足りない部分があるのではないかと感じる。

⇒事務局) 労働人材の確保を広く全般的に捉えており、事業承継も含まれると考えている。

- ・JA では、労働力の確保に向けて、無料の職業相談所を設けている他、営農ボランティアなどに取り組んでいる。
- ・戸田の観光業では、高齢化が進んでおり、外国人が短期で雇用されることもあり、質の低下が危惧される。

○まちづくりの柱3 全般について

- ・地域の人や企業が連携して結びつくことが、沼津らしさになると思う。
- ・総合計画の文章で示せない背景にある議論や取組をコラムで紹介するなど、市民へどう伝えるかが、重要である。
- ・子どもが生き生きと働きたいと思えるまち、産業づくり・会社づくりがリード文で示せると良い。リード文に生活者視点まで落とし込まれた柔らかな言葉で表現できれば、最後まで読んでもらえる。

(2)第5章まちづくりの柱4 地域の宝を活かすまち

事務局より、まちづくりの柱4 地域の宝を活かすまちについて説明。

●資料や説明に対する委員からの意見は以下のとおり。

①沼津の魅力の発信

- ・シティプロモーションやロケーション誘致において、市の職員はよく動いており、民間との連携も取れていると感じている。東日本大震災以降、海のイメージの回復に苦慮しているが、ラブライバーの強い沼津愛に応えるため、市と連携しておもてなしに取り組んできた。
- ・人、海山川、おもてなし、人の笑いなどキーワードが入ってくると良いと感じた。
- ・高校卒業とともに外へ出ていくことが多いならば、出ていく人をプロモーションに活用すると効果的である。そのためには、先ず市民に沼津を好きになってもらうことが必要である。※伊豆市の小中学生による観光情報誌（フリーペーパー）KURURA の作成。
- ・さまざまな取組を実施しているが、まだ市民に十分に伝わっていないと感じる。出ていく人を上手く活用することは非常に良いアイデアで、発信力の向上につながる。

②地域資源の創造と磨きあげ

- ・インナープロモーションという沼津市民が沼津の宝を自覚する、知る、認めることを入れてもらいたい。
- ・策定にあたり、込めた思いや検討した取組なども文章にすると集約されてしまい、全てを表現することはできない。市民が細かい部分まで知る機会や子供たちが自分たちでまちの魅力に気づく機会を作ってほしい。総合計画を教材として小学校へ配布してほしい。

⇒事務局) 第2章のまちづくりの基本理念の誇りとつながりの中で、市民一人ひとりが知ることや素晴らしい資源、人の温かさの重要性について示すとともに、柱の1の①において、シビックプライドの醸成として表現している。柱の4においても、インナープロモーションの考え方を反映できるか検討したい。基本構想の文面に書けない場合は、基本計画において意図を組んで検討を進める。

- ・それぞれの施策の関連性を示した索引があると読みやすい。
- ・「誇るべき地域資源」の中に、市民生活の中で培ってきた日常の文化が入ってくると良い。現状ではbar文化や干物、戸田塩などが連想しにくいので、「市民生活から発生した」などの表現を加えることを検討してほしい。
- ・「市民文化」という言葉がほしい。日常を魅力ある宝と認識していない市民が多く、意識変換が難しいと感じている。また、興味のない人にどう伝えるかが難しく、関わる人を増やしていくことが重要と考える。

③沼津ならではの観光の提供

- ・河津桜の時期に、沼津港に食事に立ち寄るツアーが多い。食や夜の楽しさなどをアフターコンベンションに活用し、観光客の満足度を高めていきたい。
- ・「地域資源を活用したツーリズム」とは、具体的にどのようなものか。

⇒事務局) 例えば、お茶畑を活用してお茶摘み体験や景色、ハイキングを楽しむツアーが考えられる。伊豆半島ジオパークである大瀬岬の自然を活用したガイドツアーなどもある。

- ・アスルクラロ沼津もアウェーチームのファンが観戦に訪れており、スポーツの地域資源と言える。
- ・コンベンションまたはMICE、どちらの表現が良いか検討してほしい。

⇒事務局) MICEの中にコンベンションが含まれるので、検討したい。

- ・どこに魅力を感じて沼津へ訪れているかなど、事業を検討するにあたり外からの視点も重要である。
- ・スポーツ、歴史文化、地域資源等の間に、「産業」を加えると良い。観光には1次、2次、3次全ての産業が関わってくる。

④インバウンド施策の推進

- ・沼津に最も多く訪れている国はどこか。

⇒事務局) 中国が最も多い。

- ・商工会議所を中心に広域連携により、中国の内陸部の重慶の富裕層をターゲットにファムトリップを実施してきた。受入体制として多言語表記と移動手段が課題である。
- ・体験型観光など具体的な情報発信や白隠禅師といった歴史文化などのテーマで集約した施設整備、外国人向けの夜のにぎわいづくり、体験型の文化紹介施設などの視点も考慮してほしい。
- ・スマートフォンの翻訳アプリで言葉の問題は解決できるが、食事のメニューにおいては材料までは分からないため、そうした工夫が必要である。

- ・「地域資源を活用した国籍ごとまたはマーケットごとを意識した情報発信に努める」で一文とし、後半は多言語表記や円滑なコミュニケーションなどインバウンド対応でまとめるとバランスが良い。

⑤移住・定住の推進

- ・誰が沼津をどのように魅力に感じているか調査し、どこをターゲットに施策を打ち出すか、前衛的な姿勢、「戦略」を示せると良い。
- ・マーケティングや他地域との差別化といった考え方を組み込めると良い。

○まちづくりの柱4 全般について

- ・観光を誘致する上で、観光客の防災対応に責任がある。
- ⇒事務局) まちづくりの柱7①において、「観光拠点における来訪者の安全確保」と記載している。
- ・全体の施策の関連性を網羅した因果関係図を作成してほしい。

3 その他

次回会議日程の確認

4 閉会